奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和四年八月度　入賞句一覧　　投句数　四百五十三句

大堀　武直　選

特選

白ご飯何度も噛むや終戦日　　大垣市　柴田　えり子

食事は健康のために、ゆっくりとゆったりと、よく噛んで食べるのが良いと言われている。下五の終戦日で内容がころりと変わる。食糧難の時代、白米は貴重品であった。当時のことを思い、感謝を込めて食事をする場面となった。

文庫本五冊鞄の避暑地かな　　本巣市　土川　楽人

本好きの人が、避暑地で読書三昧しようとしている。文庫本は小さくて軽いから何かと都合が良い。心の弾みが伝わってくる。私も同様の体験はあるが、避暑地でもいろいろやる事があり、あっという間に時が過ぎ、ほとんど読めずに帰って来た。

瘡蓋を剥し少年夏終る　　東京都新宿区　花澤　ちいこ

夏休みを走り回り、転んで手足を擦り剥いて、血が少々出ても気にしない元気な少年の姿が見えてくる。昔は唾を付けるか赤チンを塗ってすましたが、今は良い薬がいっぱいある。もっと外に出て遊んで欲しい。

秀逸

文豪の宿に夏炉の自在鉤　　本巣市　小泉　裕子

風鈴やガラス小鉢に海の幸　　大垣市　高田　雅章

風鈴や喋り通しの女旅　　海津市　横井　美圭

風音をそっと包みて夏落葉　　不破郡垂井町　川瀬　慶泉

風鈴の青錆ふかき音色あり　　不破郡垂井町　竹嶋　富美子

穴遺し衣を遺して蝉生る　　不破郡垂井町　児玉　正巳

爽やかや円空仏の荒削り　　愛知県名古屋市　舘野　茂子

水鉄砲五つ数へて生き返る　　愛知県尾張旭市　小野　薫

待ち合わせ時間過ぎたるソーダ水　　三重県鈴鹿市　ドラム缶王

母の味を覚えるための帰省かな　　広島県福山市　かつたろー。

入選

桐一葉座してバッハの曲を聴く　大垣市　浅井　高男
一村の音消してなほ男滝　本巣市　小泉　裕子
打ち水の渇く速さと陽の匂ひ　大垣市　佐竹　余史美
手花火や代わりばんこの黙がある　東京都北区　菱沼　多美子
切れ長の野仏御座す麦の秋　各務原市　桑原　緑
野の草に色まもられて青蛙　不破郡垂井町　大羽　志津子
水澄むや星に音色のひとつづつ　養老郡養老町　佐藤　咲楽
夕虹や守り継がるる洗堰　養老郡養老町　田中　紫香
昼寝覚め地球儀回す小さき手　大垣市　吉川　和子
夫と行く同行二人蝉しぐれ　不破郡垂井町　児玉　信子
水匂ふ青田へ開く裏の木戸　大垣市　田中　雅子
コスモスの一気に揺れてゐる不安　愛知県名古屋市　舘野　茂子
夕立や迎えの妻の男傘　揖斐郡大野町　横山　道男
徐々に輪のふくらむ徹夜踊りかな　愛知県西尾市　金子　恵美
跳ぬる子の両手また越す夏の蝶　長野県東御市　藤田　さよ
罌粟坊主揺れて待ち人来らずや　大阪府東大阪市　森　佳月
多度山に雲流れゆく蓮見かな　愛知県津島市　カバ先生
白玉に蜜たっぷりの恋の仲　福岡県福岡市　大津　英世
すれ違ふ人の残り香半夏生　大垣市　田口　貞善
心太雨は物足りなく上る　愛媛県松山市　平野　ヒサエ

選者吟

片言の節で始まる法師蝉　武　直

一般の部